

令和4年度 統合マネジメントシステム(妙高市役所 地球温暖化対策実行計画(第4期))の取組結果

- 妙高市役所では、統合マネジメントシステムの「Ⅲ-10 環境面における行政サービスの運用管理」における「資源の消費」の取組の一つとして『妙高市役所地球温暖化対策実行計画』を推進し、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。
- 令和4年度の各項目の取組結果(使用量等)は、次のとおりです。
- 令和4年度の温室効果ガス排出量(CO2換算)は「7,471.5t」であり、前年度の排出量(8,097.5t)との比較においては626.0t減少しましたが、目標値との比較では649.5t増加する結果となりました。
- 令和4年度の目標値を達成した項目は、「都市ガス使用量」、「庁用車等燃料使用量(ガソリン・軽油)」、「水道使用量」、「可燃ごみ排出量」となりました。
- 令和3年度と比較すると、一部公共施設への再生可能エネルギー(電気)の導入によるCO2排出量の実質的な低減、排雪作業の減に伴う除雪車用軽油の減少が主にCO2排出量の減少に寄与しています。
- 近年では、再生可能エネルギーの導入、電気自動車の普及、ICT化の進展に伴うペーパーレス化の推進等、エネルギー使用における大きな転換期を迎えています。温室効果ガス排出量の削減に向けた抜本的な取組を本市においても進めるとともに、職員一人一人が引き続き省エネ・省資源を意識することで温室効果ガス削減に向けた取組を実践します。

項目	目標値 (H25実績値の▲25.5%)	R4年度実績	増減量 (目標値比)	達成割合(%) (目標値比)	R3年度実績	増減量 (R3年度比)	増減比 (R3年度比)	特記事項
二酸化炭素排出量(t)	6,822.0	7,471.5	649.5	91.31%	8,097.5	▲626.0	▲7.73%	・目標値の達成はならなかったが、前年度比で7.73%減少した。 ・大きな要因として、電気における再生可能エネルギーの導入によるCO2排出量の実質的な低減、排雪作業の減に伴う除雪車用軽油の減少が主にCO2排出量の減少に寄与している。
電気使用量(Kwh)	9,552,488	10,313,262	760,774	92.62%	10,774,298	▲461,036	▲4.28%	・目標値は達成できなかったが、前年度に比べ4.28%の使用量が減少した。 ・令和4年6月以降、本庁舎、各支所、一部公共施設において再生可能エネルギーが順次導入され、CO2排出量の低減に寄与している。 ・全ての施設において、夏季の高温多湿や冬季の降雪等、気象条件により使用量が増減するため、個人レベルの努力ではこれ以上の削減を望むことは難しいと考えられる。 ・今後、再生可能エネルギーの導入や照明のLED化を進めることにより、実質的なCO2排出量の低減を図っていく必要がある。
都市ガス使用量(m3)	489,515	265,515	▲224,000	184.36%	242,784	22,731	9.36%	・目標値は達成したが、前年度に比べ9.36%の使用量が増加した。 ・空調設備にガスを使用する設備があることから、夏季の高温多湿や冬季の降雪など、気象条件により使用量が大幅に増減する傾向がある。 ・電気と同様に、個人レベルで省エネを行うことは難しいことから、設備更新により省エネ性能の高い空調の導入、カーボンニュートラルガスの導入または設備の電化といったハード面での省エネを推進する必要がある。
庁用車等燃料使用量(%) ※ガソリン、軽油	137,692	118,502	▲19,190	116.19%	144,603	▲26,101	▲18.05%	・目標値を達成し、前年度比で18.05%減少した。 ・ガソリン使用量については、コロナ禍においてWeb会議やオンライン研修が浸透しつつも、収束に向けて対面会議等が徐々に開催されるようになったこと等により公用車の利用が増えたことで前年度比でほぼ横ばいとなった。 ・軽油使用量については、冬季の気温や降雪量が大きく影響している。排雪作業の回数が少なかったため除雪車の稼働が減り、使用量の減少につながった。 ・ガソリンについては、電気自動車の普及動向を注視しながら導入台数増やしていき、抜本的な削減を行う必要がある。
水道使用量(m3)	112,434	85,081	▲27,353	132.15%	77,407	7,674	9.91%	・目標値を達成したが、前年度比で9.91%増加した。 ・各施設において、手洗いや、水質確保のための受水槽の水入替等、固定的な使用があることから削減が進まない状況。 ・施設改修、設備更新の際に、節水性能の高い設備を導入するとともに、職員は引き続き節水意識を高く持ち、取組を推進する必要がある。
可燃ごみ排出量(kg)	57,955	38,849	▲19,106	149.18%	34,682	4,167	12.01%	・目標値は達成したが、前年度比12.01%の増となった。 ・分別意識の向上で排出量は年々安定的に削減が図られている一方で、施設の統廃合等による物品の整理等がある場合は、排出量が増加する傾向にある。 ・一時的に排出量が増加することは避けられないものの、資源化を進めるとともに、平常時においては引き続き意識を高く持ちながら、月単位での管理を行う必要がある。
コピー使用枚数(枚) ※プリントアウトとコピーの合計	3,990,789	4,570,778	579,989	87.31%	4,610,915	▲40,137	▲0.87%	・目標値は達成できなかったが、前年度に比べ0.87%減少した。 ・事業の増減や新たな取組がコピー使用枚数に大きく影響するが、市役所本庁、各支所においては会議資料等のペーパーレス化を推進する成果が表れ、コピー使用は減少傾向にある。 ・学校や園においては、施設の統廃合や年度ごとの運営方針によって配布物等が増減することに伴い、コピー使用枚数も併せて増減する。 ・年々減少傾向に転じているが、未だ高い水準にあり今後のペーパーレス化への取組が重要である。
廃プラスチック焼却量(t)	—	324	—	—	181	143	79.01%	市公共施設の「妙高クリーンセンター」における市内のごみ焼却量を、当計画で算出するCO2排出量に含める必要があることから計上するもの。

※目標削減率について、二酸化炭素排出量、電気使用量以外はH25実績値の▲10.7%として計算
※下記の対象施設のうち、下線付は再生可能エネルギー(電気)の導入施設

【対象施設】(指定管理施設は含まない。)

妙高市役所、妙高高原支所、妙高支所、市立学校、市立こども園、市立保育園、勤労者研修センター、新井南体育館、斐太歴史の里、妙高保健センター、妙高高原保健センター、妙高高原メッセ、コミュニティ防災センター、月岡防災ステーション、あらい再資源センター、陣場公園、ガス水道管理センター、水道施設、下水道施設、し尿処理施設、妙高クリーンセンター、経塚斎場、妙高高原最終処分場、斐太歴史民俗資料館(農村環境改善センター)